

文化推進基本計画に基づく事業実施状況の評価及び報告説明資料②

重点取組項目	施策の方向性	リード文	新規・拡充検討項目	課名	施策・事業名	内容・イベント	総合評価	進捗状況	実施内容（R3～R6）	課題（R3～R6）
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進	(1)誰もが文化を身近に楽しめる仕組みづくり	市民が文化に対する関心や理解を深めるため、市民まつりや文化施設の運営等により、引き続き文化活動を推進するとともに、市内在住・市内出身の有名アーティストによる講演等をきっかけとした文化活動への機会を創出します。 また、仕事や育児・介護などの様々な理由により文化活動ができない方も身近に文化を楽しめる環境をつくるため、ICTを活用した文化芸術作品の保管及び公開を図るための仕組みのあり方について検討を行います。	○市内在住・市内出身の有名アーティストによる講演等をきっかけとした文化活動への機会の創出	市民センター 公民館	ルナ・ホール事業 市民会館文化事業	講座等において、市内在住者や出身者である有名アーティストに参加いただくことで、多くの市民に文化活動に興味を持っていただく機会を創出	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（実施中）	芦屋市出身者であるアーティストに出演いただき、上質な音楽の演奏等が実施している。	新型コロナ禍もあって、演奏が中止等になったこと
			○I C Tを活用した文化芸術作品の保管・公開の検討	国際文化推進課	デジタルアーカイブ	身近に文化関係資料を感じてもらうため、また、歴史的・文化的価値のある貴重な文化関係資料が散逸・消失することがないよう、ICTを活用した資料の保存及び活用を図るための仕組みのあり方について検討を行う。	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（実施中）	芦屋市立美術博物館に収蔵している江戸時代の古文書・絵図や近現代の古写真・絵葉書のデジタル化を実施した。	今後、デジタル化した歴史資料のデータの保存及び公開の方法について検討し、その適切な運用のためにシステム等を導入する必要がある。
	(2)文化活動を通じた地域のつながりづくり	市内全域で日常的に文化芸術に触れ、親しんでもらうために、文化活動を通じた地域のつながりづくりに取り組みます。 そのためには、自ら学んだ成果を発表する場や機会を提供し、「個人の学び」から「仲間づくり」や「学習成果の活用」を通して、社会へ還元し「地域社会の形成」へと発展していく機会を提供することで、「知の循環型社会」を目指した仕組みづくりを進めます。 また、芦屋での文化活動者の発掘を促進するとともに、文化活動者同士のつながりのきっかけづくりや、文化芸術を通じた社会課題解決の取組など、多様性を増す社会において、文化芸術とまちづくりとの新たな関わり方を可視化する仕組みづくりを検討します。	○「知の循環型社会」の推進 ○文化活動者の発掘、つながりのきっかけを創出	市民センター 公民館	芦屋川カレッジ・芦屋川大学院	芦屋川カレッジ受講生等とキッズスクエアなどの連携	C：達成できていない（50～0％）	未着手	キッズスクエアとの連携はできていないが、公民館事業の「夏休み子ども教室」の講師としてカレッジ卒業生が活躍している。	キッズスクエアの活動場所が、限定されているため、調整が難しい。
				社会教育推進課	社会教育推進事業（市民版出前講座）	本市の社会教育関係登録団体や、社会教育活動を通じて学んだ市民による出前講座の実施（あしや市民学びあいセミナー）	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（実施中）	社会教育関係団体が専門とする内容を社会に還元、活用された。 R3：23団体登録（1講座実施） R4：23団体登録（5講座実施） R5：20団体登録（3講座実施）	社会教育関係団体が専門とする内容を社会に還元し、活用される仕組みであるが、協力団体・利用団体ともに少ないため、今後はより活用いただけるための団体への協力依頼、利用案内（周知活動）が必要になる。
				市民参画・協働推進課	協働のプラットフォーム	地域で文化活動等されている人の発掘、および連携を促進することにより、新たな活動の連携やきっかけを生み出す(多くの方につながるが生まれ新たな活動への気づきやきっかけとなることを目的に芦屋市内で社会的な活動をされている方や地域づくりにつながる様々な取り組みについて情報発信)	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（実施中）	R3年度、R4年度にはそれぞれ2名の市民活動者に取材を行い、ホームページヘインタビュー内容を掲載した。R5年度以降は、新しい市民活動者の掘り起こしの方法について、検討を進めている。	市民活動者につながる仕組みをより効果的に構築することが課題である。市民活動の拠点であるあしや市民活動センターの機能を有効に活用し、市民活動者のつながりを広げていくことを目指す。
	(3)ユニバーサル社会づくりを目指した生涯学習活動の振興	病院や福祉関係団体、社会教育関係団体等との連携により、地域での生涯学習として文化講座の開催、文化芸術を活用した社会参加の促進や生活の豊かさを育む取組を引き続き推進します。さらに、子どもから高齢者まで、また、障がいの有無に関わらず、誰もが容易に文化芸術活動に触れられ、表現活動を行うことができる環境づくりを推進するとともに、様々な人が交流できる仕組み・環境づくりを推進します。	○文化芸術を通じて様々な人が交流できる仕組み・環境づくり	障がい福祉課	市内展示	障がい者・児による芸術作品等の展示を市内店舗等に広げていく	A：達成できた（100～80％）	着手済（実施中）	福祉センター・木口記念会館における「障がい児・者作品展」に出展された作品について、展示機会を増やすための取組を行った。 具体的にはR4年度以降、作品展の期間終了後に、市内郵便局・市内の店舗などに協力を依頼し、一定期間作品を展示していただいた。	以前よりは展示機会が増えたものの、まだ展示場所は限られていることから、今後も障がい者・児による芸術作品等の展示機会を増やしていけるよう努めたい。
	(4)文化ゾーンの活性化、各種施設の有効活用	市民の文化芸術活動が充実するような施設整備、運営を行い、文化ゾーンの活性化、各種施設を有効に活用します。 文化ゾーン（図書館、谷崎潤一郎記念館、美術博物館）の利点を生かし、3館の連携・協力により文化活動事業を進めます。	○文化ゾーン（図書館、谷崎潤一郎記念館、美術博物館）の利点を生かした3館連携・協力事業	国際文化推進課	谷崎潤一郎記念館管理運営事業 美術博物館管理運営事業	谷崎・美術博物館の割引サービスによる利用者増への取組	A：達成できた（100～80％）	着手済（完了済）	R元年度より谷崎潤一郎記念館と美術博物館の相互利用割引サービスを実施しており、利用者増に資することができた。	谷崎潤一郎記念館と美術博物館の相互利用割引サービスを実施し、利用者増へ努めているが、更なる利用者増に対して、現状を把握し、より良好なサービスがあるかどうかを今後とも引き続き検討する必要がある。
				図書館	図書館運営事業	展示スペースの有効活用	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（完了済）	美術博物館、谷崎潤一郎記念館と連携した展示を実施	展示テーマによっては、本を集めるのが難しいこともあり、本の紹介ができないこともあった。
	(5)文化芸術を行う団体への支援	市民の文化芸術活動が活発に行われるよう支援するとともに、行政や財団等の様々な補助金や助成金の制度を発信することにより、文化芸術活動への参画を促し、活動の機会の創出を促進します。	○補助金の活用による文化芸術活動の機会提供の促進	社会教育推進課	学校園・家庭・地域の教育推進支援事業	コミスクの活動等、地域コミュニティを醸成する事業の支援	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（実施中）	社会教育関係団体の活動を支援することにより、学習・文化・スポーツなどの活動を通じて豊かな人間関係と地域の絆を生み出し、豊かな市民社会の形成を図れた。 コミュニティ・スクール補助金 10団体 補助金2,548千円 コミュニティ・スクール助成事業補助金 1団体 2,500千円	よりよいコミュニティの創造・発展を目指し、芦屋市コミュニティ・スクールが相互に連絡協調し、その自主的な活動の活性化を図ることを支援している。
				市民参画・協働推進課	市民提案型補助金	市民提案型補助金を80周年以降も同額で継続することにより、市民の文化活動等のきっかけづくりとする。	A：達成できた（100～80％）	着手済（実施中）	市民活動者が活動するのに必要な経費のうち、補助対象と認められる経費の一部を補助する取組。補助金の交付にいたるには、書類審査、面接審査を通過することが必要である。令和3年度から令和6年度までの交付実績は回答様式①のとおりである。	事業実施後に活動が継続的に行われているかを確認していくことや、申請者にとってより申請しやすい制度設計を行っていることが今後の課題である。
				総務課	財産区に関する事務	地域伝統文化として伝承される山車の維持管理に要する経費を助成することにより、地域伝統文化の振興とコミュニティの健全な発展を図る。	A：達成できた（100～80％）	着手済（実施中）	6団体へ補助金を交付 R3年度 1,621,390円 R4年度 1,800,000円 R5年度 1,800,000円 R6年度 1,800,000円	物価の高騰により、山車の維持管理や運行に要する経費が増加しているとの意見がある。

文化推進基本計画に基づく事業実施状況の評価及び報告説明資料②

重点取組項目	施策の方向性	リード文	新規・拡充検討項目	課名	施策・事業名	内容・イベント	総合評価	進捗状況	実施内容（R3～R6）	課題（R3～R6）
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進	(6)文化に関する情報発信の強化	市内の文化活動や文化資源を幅広い世代に周知するため、ソーシャルメディアなどを有効に活用します。 また、街並みや衣食住などライフスタイルに溶け込んだ芦屋の魅力ある文化や阪神間モダニズム・日本遺産等の歴史的魅力にあふれた文化財群に関する情報発信により、本市の更なる魅力発信に取り組みます。	○ソーシャルメディアを活用した情報発信 ○阪神間モダニズムや日本遺産等の歴史的魅力にあふれた文化財群に関する情報発信	秘書・広報課	動画配信	YouTubeを活用した動画配信	A：達成できた（100～80%）	着手済（完了済）	阪神間モダニズムや日本遺産等の歴史的魅力にあふれた文化財群に関する特集を広報番組で取上げて配信を行った。 <例> R3年10月後半 コレクション展「絵画はつづく、今日にむかって」 R4年5月前半 北原照久コレクション展 芦屋市立美術博物館 R5年10月後半 ヨドコウ迎賓館の発掘調査～幻の温室・滝・池を発見～ R6年10月後半 探検！発見！！ヨドコウ迎賓館	文化に関するYouTube動画の再生回数が伸びないため、視聴者の興味を引く番組作りを心がける。
				地域経済振興課	阪神間連携ブランド発信事業	まち歩きマップの作成やイベントの開催による情報発信	A：達成できた（100～80%）	着手済（実施中）	R3:「阪神KANお散歩マップ」を2種作成。テーマ：「自然とスポーツ・レジャー」、「珈琲・紅茶」。マップごとにテーマを絞ることで、違った層へのアプローチとなると同時に、シリーズ化することで情報発信の効果が高まったと考える。 武庫川女子大学経営学部との連携により、スマホ世代の意見を聴取し、スマホ世代が必要とする意見を反映させた。駅で入手できる手軽さやモデルコースがあり利用しやすいと好評であった。 コロナ禍ではあったものの、人数を制限して開催した「芦屋阪神KANモダニズムめぐり」に関しては地元以外の応募も多数あり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。 R4：神戸市が抜け阪神南県民センターが加わり、体制を変更した形で実施。 阪神間モダニズムを題材とし、「阪神間モダニズムセミナーの開催」「デジタルスタンプラリー“モダニズムクイズ巡礼”」「阪神間モダニズムの魅力を訪ねるまちあるきバスツアー」を実施した。阪神間モダニズムの代表でもあるヨドコウ迎賓館を中心に阪神間モダニズムの魅力を様々なツールで発信することで、幅広い層へのアプローチとなり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。 R5：阪神間に現存するモダニズム建築や多彩な文化を紹介し、阪神間モダニズムの魅力を地域内外に発信するため、スイーツ&パンを題材とした「阪神間お散歩マップ」を発行した。 また、「阪神間モダニズムセミナー」や「阪神間モダニズム体感イベント」、「レトロ&モダニズムウォーク」を実施し、阪神間モダニズムを様々なツールで発信することで、幅広い層へのアプローチとなり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。 R6：阪神間に現存するモダニズム建築や多彩な文化を紹介し、阪神間モダニズムの魅力を地域内外に発信するため、「阪神間お散歩マップ」を2種発行した。（テーマ：「近代建築編」「アート編」）	イベント内容やマップの内容について好評をいただいており、イベント実施や発行に併せてインスタ投稿なども行ったが、阪神間モダニズムの認知度の向上や、市への来訪者数の増加に繋がっているか成果が把握しづらい。
				地域経済振興課 国際文化推進課	日本遺産	歴史的魅力にあふれた文化財群を地域主体で発信することにより、地域の複数の文化財を総合的かつ一体として活用する	A：達成できた（100～80%）	着手済（実施中）	R3：教育動画・講座・モニターツアーの企画及び認知度調査を実施。 各市の構成文化財を題材とし、アピールを行った。コロナ禍ではあったものの講座には興味を持った大人や子供が参加し好評であった。作成した教育動画をYouTubeにて配信。QRコードを掲載したチラシを観光協会等関係団体に配布し、今後各市にてPRを行う。モニターツアーは各コースのテーマに沿ったスポットを選定。関西学院大学と関西国際大学との連携により実際の視察を行い、学生の意見や写真を取り入れたパンフレットを作成し、モニターツアーに使用した。 R4：知名度を高め誘客とリピーターの創出につながるのとされる効果的な手法や必要な環境整備、工夫すべき点などを様々な観点から導き出すことを主旨としたマーケティング調査を実施し、誘客促進事業として各市の構成文化財23箇所とした「日本遺産を巡るデジタルスタンプラリー & フォトコンテスト」を実施し、アピールを行った。また、日本遺産フェスティバルや日本遺産の日のイベントに参加しブース出展することにより開催地界隈の住民に対し認知度を向上し、誘客につながるようアピールした。その他にも「HYOGO SAKE EXPO2022」や「HYOGO SAKE TRIBE」などのイベントにもブースを出店し近隣住民への認知度向上に向けたPRを行った。また、兵庫デスティネーションキャンペーンの全国宣伝販売促進会議に参加したり幅広くアピールを行った。 R5：前年度に引き続き、効果的に知名度を高め誘客とリピーターの創出につなげるため、誘客促進事業として「デジタルスタンプラリー」を実施し、5市のPRを行った。また、近隣市で開催されるイベント「梅田ゆかた祭2023」や「HYOGO SAKE EXPO2023」、「ツーリズムEXPOジャパン2023」、「灘の下り酒物語 From KOBE」、「灘五郷ふえ酒 in 阪神競馬場」、「神戸ルミナリエ」、「灘五郷の蔵開き」に出展し、近隣住民への認知度向上に向けたPRを行った。 R6：近隣市で開催されるイベント「おこしやす芸術祭」「灘五郷の蔵開き」「神戸ルミナリエ」「日本遺産マルシェ」に出展し、近隣住民への認知度向上に向けたPRを行った。また、各市の構成文化財や観光スポットを紹介する「伊丹と灘五郷観光パンフレット」を作成し、イベント時に配布した。	認知度の向上や、市への来訪者数の増加に繋がっているか成果が把握しづらい。
				国際文化推進課	日本遺産	他課と連携し、文化財を紹介する	A：達成できた（100～80%）	着手済（完了済）	地域経済振興課と連携して、阪神間日本遺産推進協議会が実施する事業の中で、本市の文化財を紹介している。	今後、継続して阪神間日本遺産魅力発信事業を効果的に実施していく仕組みや内容を検討する必要がある。

文化推進基本計画に基づく事業実施状況の評価及び報告説明資料②

重点取組項目	施策の方向性	リード文	新規・拡充検討項目	課名	施策・事業名	内容・イベント	総合評価	進捗状況	実施内容（R3～R6）	課題（R3～R6）
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり	(2)芦屋らしい良好な住まい・景観づくり	様々な文化資源を有効活用し、芦屋らしい良好な住まい・景観づくりに取り組むとともに、周辺の地域や店舗などが連携し、地域に応じた公園の利活用を推進した庭園都市ならではの一体的なまちづくりを進め、都会の中でも自然と触れあい、安らぎが感じられる、市民の誇りとなる芦屋の魅力の醸成を図ります。	○周辺地域や店舗等が連携し、地域に応じた公園の利活用	道路・公園課	都市公園の管理・運営事業 都市公園施設整備事業	パークフル（各種公園利用申請のオンライン化を実施）	A：達成できた（100～80％）	着手済（実施中）	R３年度よりシステム本格稼働。オンライン申請の周知を進めることにより、利用率を向上を目指す。	高齢者などネット利用率の低い世代の利用促進が課題である。
				道路・公園課		道路の弾力的活用	A：達成できた（100～80％）	着手済（完了済）	R３年度に商工会に対して制度等の説明を行い、事業者への周知を依頼した。	単発のイベントではなく、持続可能な仕組みづくりについてが課題である。
				基盤整備課		地域が主体となり、公園を活性化（打出公園の大規模工事）	A：達成できた（100～80％）	着手済（完了済）	R３年度に実施した打出公園リニューアルワークショップで作成した公園リニューアルの方針図に基づき、R５年度に公園リニューアル工事を実施した。	R5年度に公園リニューアル工事を実施したため、現状については、特に課題等はない。
	(3)読書のまちづくりの推進	子ども向けのイベント等だけでなく、大人をターゲットとした企画を実施することで、より一層幅広い市民が本に親しみ、楽しめる取組を推進します。 また、I C Tの活用によって日頃図書館等に赴くことのできない市民も読書に親しみ、心豊かに暮らすことのできる環境の整備に取り組みます。	○地域・学校園等との連携 ○大人も子供も楽しめるレクリエーションの実施 ○ICT等の活用など読書に親しむことができる環境の整備	図書館	図書館運営事業	アウトリーチサービスの拡充	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（実施中）	出前事業 幼稚園等への読み聞かせ	要望があれば読み聞かせに行かせていただいたが、すべての幼稚園で実施するには至らなかった。
				図書館		子どもだけでなく、大人向けイベントの実施など様々な年代を対象としたレクリエーションの企画	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（完了済）	スマートホン教室　大人のための朗読会、大人が楽しむおはなしの会	高齢者を対象としたイベントの充実。
				図書館		電子図書の導入などにより幅広い世代において読書に親しむことができる環境を整備	B：ある程度達成できた（80から50％）	着手済（完了済）	R３年８月から電子図書館サービスを開始	コンテンツの充実 電子図書館サービスの周知。
	(4)文化を通じたまちの魅力の一体的な発信	本市は、北に六甲山の山並みと、南に大阪湾を臨む豊かな自然に恵まれており、市内には洗練された店舗も多く、それらが住宅と調和した品格のあるまちなみを形成しているため、文化を通じたまちの魅力を一体的に発信します。 本市の魅力的な地域資源を最大限に生かすため、近隣市や学校などと連携し、さまざまなメディアを通じた地域の魅力の発信をします。	○さまざまなメディアを通じた地域の魅力発信 ○魅力発信における近隣市や学校などとの連携	地域経済振興課	阪神間連携ブランド発信事業（再掲）	まち歩きマップの作成やイベントの開催による情報発信	A：達成できた（100～80％）	着手済（実施中）	R3:「阪神KANお散歩マップ」を２種作成。テーマ：「自然とスポーツ・レジャー」、「珈琲・紅茶」。マップごとにテーマを絞ることで、違った層へのアプローチとなると同時に、シリーズ化することで情報発信の効果が高まったと考える。 武庫川女子大学経営学部との連携により、スマホ世代の意見を聴取し、スマホ世代が必要とする意見を反映させた。駅で入手できる手軽さやモデルコースがあり利用しやすいと好評であった。 コロナ禍ではあったものの、人数を制限して開催した「芦屋阪神KANモダニズムめぐり」に関しては地元以外の応募も多数あり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。 R4：神戸市が抜け阪神南県民センターが加わり、体制を変更した形で実施。 阪神間モダニズムを題材とし、「阪神間モダニズムセミナーの開催」「デジタルスタンブラリー”モダニズムクイズ巡礼”」「阪神間モダニズムの魅力を訪ねるまちあるき/ツアー」を実施した。阪神間モダニズムの代表でもあるヨドコウ迎賓館を中心に阪神間モダニズムの魅力を様々なツールで発信することで、幅広い層へのアプローチとなり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。 R5：阪神間に現存するモダニズム建築や多彩な文化を紹介し、阪神間モダニズムの魅力を地域内外に発信するため、スイーツ&パンを題材とした「阪神間お散歩マップ」を発行した。 また、「阪神間モダニズムセミナー」や「阪神間モダニズム体感イベント」、「レトロ&モダニズムウォーク」を実施し、阪神間モダニズムを様々なツールで発信することで、幅広い層へのアプローチとなり、交流人口増加のきっかけになったと思われる。 R6：阪神間に現存するモダニズム建築や多彩な文化を紹介し、阪神間モダニズムの魅力を地域内外に発信するため、「阪神間お散歩マップ」を２種発行した。（テーマ：「近代建築編」「アート編」）	イベント内容やマップの内容について好評をいただいており、イベント実施や発行に併せてインスタ投稿なども行ったが、阪神間モダニズムの認知度の向上や、市への来訪者数の増加に繋がっているか成果が把握しづらい。
				政策推進課	シティプロモーション（再掲）	本市の特徴でもある学校給食を題材とした映画「あしやのきゅうしょく（飯）」の公開とともに、市の魅力広く発信していく。	A：達成できた（100～80％）	着手済（完了済）	市制施行８０周年記念事業として製作支援した映画「あしやのきゅうしょく」が公開された後、ＤＶＤの全国販売により本市の魅力を広く発信することができた。	本市の学校給食という特色のあるテーマに特化した取組は一定の効果があったため、文化や歴史等を含めた総合的な魅力発信も検討が必要である。今後、市内外問わず多くの方に本市の取組をより広く知ってもらうための効果的な発信方法に課題である。